



## 本格的に指導がはじまりました

6月8日から、ことばの教室にも元気な子どもたちが来てくれるようになりました。休校中のできごとや、学校が始まってからの様子を、たくさん教えてくれて、とても嬉しく感じます。子どもたちは新しい生活様式に戸惑いながらも、少しずつ慣れてきているようにも見えます。

ことばの教室での活動も少し変わりました。例えば、使えるおもちゃを消毒できるものに限定したり、活動の始めと終わりに消毒や手洗いの時間があったり・・・マスク着用が当たり前になっているので、なかなか表情を見ることが難しいのも正直なところです。そんな時だからこそ、頷いたり、相手の表情を見ながら話したりすることを意識しながら、活動していこうと思います。

美瑛町の小学校の1学期終業式は8月7日です。ことばの教室の通級は7月31日が1学期最終日となります。これからやって来る、暑い夏を乗りきるために、引き続き、栄養と睡眠と生活リズムを整えましょう。



\* 1学期の通級最終日は31日(金)です。



※引き続き来室の際は、保護者の皆様もスリッパの持参をお願いいたします。来室時の検温にもご協力をお願いします。

\_\_\_\_\_さんの通級日は( )曜日( : ~ : )です。

月		火		水		木		金	
				1		2		3	
6		7		8		9		10	
13		14		15		16		17	
20		21		22		23 海の日		24 スポーツの日	
27		28		29		30		31 1学期通級最終日	

\*色がついているところが通級日です

\*新型コロナウイルス感染防止のため、今後予定が変更することがあります。

\*都合が悪く来られない日はご連絡ください。(調整できるか、検討させていただきます。)

## これから さらに必要！！ 文を書く力

「作文」と聞くと、文字を書くことの方に意識が向けられがちです。そうではなくて、文を作るということに目を向けると、その力は現代社会ではとても大事な力の一つなのです。

『小学校6年生までに必要な作文力が1冊でしっかり身につく本』の著者である安藤英明氏によれば、これからの時代は「作文力」がカギを握るそうです。

よく「活字離れ」などと言われますが、実際のところ、文章でのコミュニケーションは減るところか増える一方です。

昔であれば直接会って話したり、電話をしたりしていた用件も、今はメールでやりとりをすることが増えています。SNSだって文字のコミュニケーションです。そう考えると、現代は、人類史上、最も「文字コミュニケーション」に頼っている時代と言えるでしょう。

文が書けるようになるための必要条件は、知っている言葉を増やすことです。単語をたくさん書けるようになれば、文を作ることに広がります。



そのトレーニングの例です。

りんご	と いえ ば	あ ま い
き れ い	と いえ ば	

～と見えばの後に入る言葉を書いてみましょう。答えは1つではありません。自由にたくさん  
の言葉を発想できます。

このように 使える言葉を増やす → 短い文を作る → 文と文をつなげる → 言葉と言葉をつなげる → 原稿用紙を使う → いろいろな作文の型を知る というステップを踏むと、力がついてくるのです。「いろいろな作文の型」とは、子どもたちが必ず書く機会のある「読書感想文」や行事の「作文」などです。

私は子どもの頃、決して読書が好きだったわけではありません。でも作文は好きでした。当時の担任の先生から作文を書くコツを教えてもらい、文を書くことの楽しさが芽生えたのです。読書はことばを獲得するために、また心を育むためにも必要だと思います。同じくらい文に書いてみることの楽しさも必要だと思います。文を書きたいから本を読む。ことばを覚えたから文にする。そんな相互作用につながれば嬉しいです。（文責 斎藤）